

第117回

# 定期総会

令和4年5月15日(日)

山梨県立甲府高等女学校同窓会

山梨県立甲府第二高等学校同窓会

山梨県立甲府西高等学校同窓会





見つけよう  
絆の新しい築き方

壁のない社会を目指して

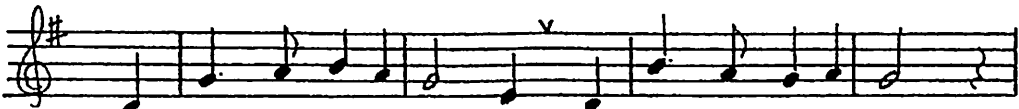
# 山梨県立高等女学校 校歌 山梨県立甲府高等女学校

作詞 本多 龜 三  
作曲 三谷 良 太

♩=96



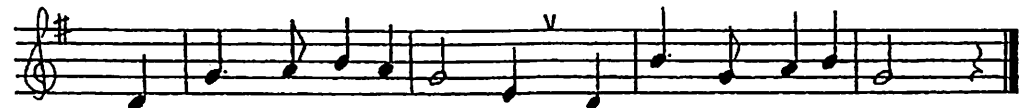
1. そ こ つ い わ ね に ま き ー ば し ら



ふ と し き た て し ま な ー び や の



に わ に め ぐ み の つ ゆ ー し げ く



そ だ つ わ れ ら ぞ さ ち ー お お き

四

三

二

一

榮えゆくこそめでたけれ  
春立つ毎に色を添へ  
教の雨にうるほひて  
未だ二葉なる姫小松

貞淑の心磨かなむ  
清き流れを鑑とし  
金溪をしのぶ荒川の  
皇國に無雙勝景なる

節操の心高めなむ  
靈しき姿を仰ぎつ、  
千代に動かぬ富士の嶺の  
皇國の鎮と峙ちて

育つ我等ぞ幸多き  
庭に皇恩の露繁く  
太しき立てし學び舎の  
底つ磐根に眞木柱

# 山梨県立甲府第二高等学校 校歌

## 山梨県立甲府西高等学校

作詞 尾崎喜八  
作曲 平井康三郎

一

立ちならぶ四方の山々  
めぐり出る豊のながれに  
美わしや甲斐の國中  
歴史古る大さ都よ  
こゝにして母校のいらか  
玉の窓空に映えたり

二

身は鍛え心清めつ  
いや深く学を修めて  
世の幸と国の栄に  
つくさなん高き理想よ  
その夢のうつゝの姿  
まなかいの富士に見るかな

三

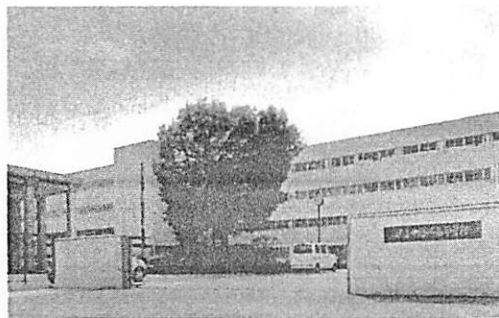
峡深く結ぶ粗玉  
磨かずば光あらしな  
秀ずべき資性のさまざま  
生い立たす愛の母校よ  
称えなんとこしえかけて  
甲府なる我が西高



甲府高等女学校



甲府第二高等学校



甲府西高等学校

# 総目次

とびら	
校歌	
甲女 西高	
総目次	1
写真頁	2
あいさつ	
..... 甲府西高等学校同窓会会長 石原敬彦	3
..... 第117回定期総会実行委員会委員長 深川和彦	4
..... 甲府西高等学校校長 初鹿野仁	5
<b>第117回定期総会</b>	
総会次第	7
令和3年度事業報告書	8
令和3年度同窓会収支計算書	9～10
第116回同窓会定期総会収支計算書	11
令和2年・3年度企画部事業報告	12
令和4年度事業計画書(案)	13
令和4年度同窓会収支予算書(案)	14
第117回同窓会定期総会収支予算書(案)	15
同窓会役員	16～18
同窓会会則	19～20
<b>特集</b>	
見つけよう 絆の新しい築き方「壁のない社会を目指して」	21～30
<b>がんばっている在校生</b>	
令和3年度全国大会・関東大会出場および活躍の記録	31
進路状況	32
<b>協賛者寄付者御芳名</b>	33～46
<b>甲府西高等学校第117回定期総会実行委員会、編集後記</b>	47
<b>奥付</b>	48



4月8日 入学式



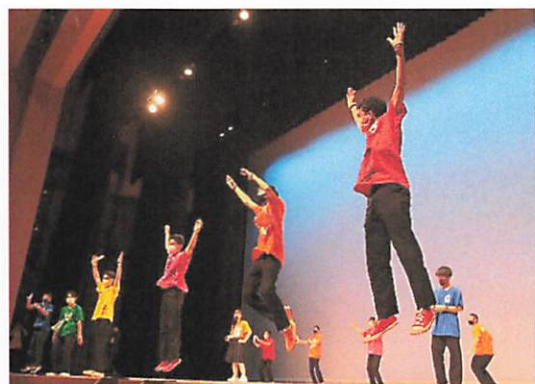
5月12日 県高校総体



5月22日 吹奏楽部定期演奏会



6月24日 鳳凰祭①



6月26日 鳳凰祭②



10月1日 球技大会



12月18日 土曜講座



12月21日 総合的な探究の時間講演会



## あいさつ

甲府西高等学校同窓会

会長 石原 敬彦

風薫る季節となりました。本日、ここに第117回総会を開催することができます。紆余曲折がありましたが、第117回総会にご尽力いただいたすべての皆様にまずもって心より感謝を申し上げます。

変えられないものを受け入れる心の静けさと、変えられるものを変える勇気と、その両者を見分ける英知を与え給え。

これは神学者ラインホルド・ニーバーの祈りの言葉で、私は迷った時、いつもこの言葉を支えとしています。「変えられないもの」は何で「変えられるもの」は何であるのか。コロナ禍にあり、実際に迷うことの連続でした。そして「変えられないもの」として私が最優先に考えてきたことは、会員の皆様の安全でありました。活動のほとんどの実施を見合わせることにし、その都度、「変えられるもの」としての対応策をとってまいりました。

その結果、たくさんの方々にご苦勞をおかけすることになりました。事務局には、常任理事会・理事会を中止にするたびに、中止を伝える通知と一緒に議案を文書化、全常任理事・理事の人数分を印刷、封筒に入れ、郵送をしていただきました。また、ホームページの担当にも同様にその都度ホームページを更新・追加していただきました。企画部には、講演会の中止を受けて、特別なDVDを制作していただきました。117回の実行委員会には、コロナ禍における最良の総会の実施方法を模索していただき、開催実現に向けてご尽力いただきました。傘寿を迎えられた皆様にも、ご理解とご協力をいただく中で、お祝いの担当には、ご参加予定の50人の皆様お一人おひとりに、お祝いのお品物とコサージュを郵送していただきました。執行部においても、前例のない対応が続き、何度も何度も坂本悦子顧問様をはじめ、諸先輩方にご相談を申し上げ、お知恵とお力を拝借してまいりました。第117回総会を開催するにあたり今、浮かんでくるのは、ただただ感謝の気持ちです。

何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ やがて大きな花が咲く。

金メダリスト高橋尚子さんを育てられた高校時代の陸上部の恩師、中澤監督の言葉です。それまで出来ていた多くのことが、新型コロナウイルスによって出来なくなりましたが、今は大地にしっかりと根を張る時と考えております。実際に西高同窓会は、皆様にとしっかりと支えられ、肅々と前に向かって歩みを続けています。今回、700名の会員を集めて懇親会を実施することはできなくとも、コロナ禍を乗り越えるために行われたすべての取り組み、結集した知恵は、決して無駄にはならず、今後の同窓会に活かされていくと確信しています。もう一度心から感謝を申し上げるとともに、会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、あいさつとさせていただきます。



## あいさつ

甲府西高等学校同窓会  
第117回定期総会実行委員会  
委員長 深川和彦

まずもって、前回担当の曾根実行委員長はじめ第116回の委員会の皆様におかれましては、準備段階から約3年に渡りご苦勞されまして、本当にお疲れ様でございました。本来であれば、皆様の前で女学校最後の高29回生から、男女共学の30回生の私たちに歴史的?なバトンを受ける予定でしたが、第116回は紙面開催という残念な結果となってしまいました。心より感謝と御礼を申し上げます。また坂本悦子会長におかれましては、二期四年間本当にお疲れ様でございました。さて、思い起こせば46年前の高校入学時に、一高か南高の野球部に入部するつもりだった私は、二高合格は複雑な心境でした。でも逆に1年生から試合に出られると思ひ、入学を楽しみに待ちました。しかしきびしい現実が待っていました。野球部（正式には2年時春に高野連登録）は未整備のグラウンドの使用となり、石拾いを含む整備が大変でした。予算も無く、用具等は当時の川崎義雄先生の個人負担で購入していただき、公式戦は翌年春からの参加。戦績は強豪校ばかりと対戦し、ほとんどがコールド負けでしたが、2年時の秋季大会での記念すべき公式戦一勝は、忘れられない思い出となりました。伝統ある甲府西高ですが、入学時に二高、卒業時に西高の代は、私たちと一つ下の二学年だけで貴重な経験をさせていただきました。現在の西高の生徒数は私達の時代の半分以下で本当に少数精鋭です。学習優先の中での運動部等の活動は、指導者の皆様の努力の賜であり、本当に感謝しております。今回のテーマ『見つけよう絆の新しい築き方～壁のない社会を目指して～』は、コロナ過における現代社会でも、毎年同窓会だけはしっかりとつながるよう、委員全員で考えました。尚、題字は30回生の飯室君、表紙絵は恩師の佐野智子先生にお願いしました。今後は石原新会長を微力ではありますが支えながら同窓会を盛り上げていきたいと考えております。





## あいさつ

甲府西高等学校

校長 初鹿野 仁

四方の山々が緑に映え、風薫る五月、本日ここに、第177回同窓会定期総会が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また、皆様には、平素より母校の教育振興のために格段のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染は、いまだ収束のめどが立たず、社会生活は言うまでもなく、母校西高の学校生活にも大きな影を落としております。しかしながら、このような閉塞感漂う中にあっても、本校はその歩みを止めてはおりません。学習面では、分散登校下にあっても、ICTを用いた授業を展開し、時間割通りに学びを進めることができました。また、学校行事においても、学園祭や球技会など、生徒が知恵を出し合いながら工夫し、感染対策を万全にして、できる限り最高のものを創り出すことができました。本来の高校生活とかけ離れ、常にコロナ感染を意識しながらの生活ではありますが、これらのことを通して、困難な状況にあっても、簡単に諦めてしまうのではなく、何とかして前進しようとする姿勢を身につけることができたのではないかと考えております。

同窓会総会につきましても、昨年度の計画と同様に今年度も、本校の体育館において総会のみ開催することになりました。本来であれば多くの同窓生が一堂に会し、交流を深める貴重な機会であるにもかかわらず、このような開催とならざるを得ないことは、誠に残念でなりません。しかしながら、これを機に、母校を訪問していただき、懐かしい学生時代に思いを馳せるとともに、青春の真っ只中にある今の生徒の様子をご覧いただければと思います。

ところで、本校は今年度120周年を迎えます。同窓生の皆様がこれまで大事に築き上げてきた本校の歴史に新たな1ページを加えるべく、教育活動充実のため、教職員一同、一丸となって取り組んでおります。今、教育には、これからの先行き不透明な時代をたくましく生き抜いていく力の育成が求められています。昨年度から本校で始まった国際バカロレア（IB）の教育プログラムは、単に知識を身につけるだけでなく、物事を批判的に捉える力、自らの意見をしっかりと主張する力、そして多様な人々と協働する力などの育成を重視しています。これらの力は、これからの不透明な時代を生き抜くために不可欠な力であり、本校では、国際バカロレアの手法を授業の様々な場面に取り入れ、ICT技術をふんだんに活用しながら探究的な学びを推し進めることで、その育成を図っているところです。同窓生の皆様には、本校が取り組むこれからの見据えた教育を通じて、次代を担う多様な人材が輩出されることにより、母校が更に大きく発展することを期待していただきたいと思います。

結びに、同窓会定期総会実行委員の皆様方のご尽力に対し、心から敬意を表するとともに、同窓生の皆様方の益々のご健勝並びに同窓会の更なる発展をご祈念申し上げ、あいさついたします。

# 第117回 甲府西高同窓会定期総会 次第

日時 令和4年5月15日(日)

9時30分受付

10時00分開会

場所 甲府西高等学校体育館

- 1 開会のことば
- 2 物故 恩師・会員に黙禱
- 3 同窓会長あいさつ
- 4 学校長あいさつ
- 5 前会長退任あいさつ
- 6 議長選出
- 7 議 事
  - (1) 令和3年度 事業報告
  - (2) 令和3年度 会計報告
  - (3) 第116回定期総会 会計報告
  - (4) 会計監査報告
  - (5) 令和4年度 事業計画(案)
  - (6) 令和4年度 予算(案)
  - (7) 第117回定期総会 予算(案)
  - (8) その他
- 8 議長解任
- 9 新入会員紹介・花束贈呈(高74回生)
- 10 傘寿の祝い(高12・13回生)
- 11 次期 第118回定期総会当番回生へ引き継ぎ(高31回生)
- 12 閉会のことば

## 令和3年度 事業報告

### 令和3年

- 4月 9日 母校入学式 会長の祝辞を印刷して入学生に配布  
5月16日 第116回定期総会……10月 9日に再延期  
5月22日 西高吹奏楽部定期演奏会 祝い金贈呈  
5月30日 東京支部総会……中止  
6月23日 鳳凰祭 於:YCC県民文化ホール 祝い金贈呈  
24日 //
- 7月 4日 西美会展(7月1日～7日) 於:県立美術館 祝い金贈呈  
8月25日 常任理事会……中止  
9月17日 理事会……中止  
9月30日 第116回定期総会……書面決議にて可決承認  
11月22日 第1回常任理事会・理事会 於:鳳凰館
- ① 第117回定期総会について
  - ② 今後の総会と懇親会開催方法について
  - ③ 同窓会会計について
  - ④ 令和3年度講演会について
  - ⑤ その他・改正理事への情報発送方法変更の件

### 令和4年

- 1月13日 企画部DVD完成  
2月 8日 第2回常任理事会・理事会……中止  
2月28日 同窓会入会式 同窓会パンフレットを新たに作成し卒業生に配布  
入会式には参加せず、記念品目録とパンフレットを事前にお届けした  
3月 1日 卒業式 会長の祝辞を印刷して卒業生に配布  
3月24日 第3回常任理事会……中止  
4月 8日 第3回理事会……中止

※その他 執行部・事務局・各部は会議を年間数回実施して会の運営にあたる

## 令和 3 年度 同窓会収支計算書

令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで

収入総額	支出総額	差引額
4,559,657	2,998,128	1,561,529

## 収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
前年度繰越金	1,341,631	1,341,631	0	
会 費	2,200,000	2,200,000	0	新会員会費10,000円×220名
寄 付 金	0	0	0	
積立金取崩収入	0	1,018,012	△ 1,018,012	
雑 収 入	10	14	△ 4	利息等
収 入 合 計	3,541,641	4,559,657	△ 1,018,016	

## 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
謝 礼 金	100,000	30,000	70,000	講師謝礼等
旅 費	70,000	6,000	64,000	タクシー代
消 耗 品 費	30,000	23,364	6,636	事務用品等
記 念 品 代	220,000	220,000	0	卒業生記念品
会 議 費	450,000	312,129	137,871	常任理事会・専門部活動等
印 刷 製 本 費	360,000	427,902	△ 67,902	会報等印刷
通 信 運 搬 費	70,000	65,324	4,676	各会議通知郵送料等
手 数 料	30,000	25,190	4,810	銀行貸金庫・残高証明・振込手数料等
教 育 振 興 費	1,000,000	1,000,000	0	学校協力費
雑 費	20,000	47,009	△ 27,009	餞別等
慶 弔 費	30,000	30,000	0	生花代
活 動 費	200,000	40,000	160,000	各種催事参加祝金等
事 業 費	650,000	771,210	△ 121,210	總會準備金・奨学金・広告代
同窓会積立金	0	0	0	
固定資産購入支出	200,000	0	200,000	
予 備 費	111,641	0	111,641	
支 出 合 計	3,541,641	2,998,128	543,513	

## 令和 3 年度 同窓会収支計算書

現 金	181,522
普通預金	1,380,007
定期預金	20,192,224

上記の通り報告いたします。

令和4年3月31日

同窓会長  
会計担当

石原 敬孝 (印)

土屋 和子 (印)

本道 民呼 (印)

安達 映真 (印)

望月 かづみ (印)

厳正に監査の結果、諸帳簿、証票ともに適正に処理されていたことを確認しました。

令和4年4月3日

会計監査員

久保 嶋 仁 (印)

塩 島 正文 (印)

## 第116回 同窓会定期総会収支計算書

収 入 総 額	支 出 総 額	差 引 額
3,539,741	3,539,741	0

## 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
広告・協賛金	3,000,000	3,061,000	△ 61,000	企業・会員等からの広告・協賛・寄付金
総会会員券	3,000,000	0	3,000,000	会費収入 5,000円×0枚
総会準備金	200,000	400,000	△ 200,000	本会より補助
雑 収 入	50,000	31	49,969	利息
補 填 金	0	78,710	△ 78,710	本会より補填
収 入 合 計	6,250,000	3,539,741	2,710,259	

## 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
謝 礼 金	500,000	32,416	467,584	総会誌表紙絵お礼等
消 耗 品 費	50,000	64,387	△ 14,387	事務用品費
印 刷 製 本 費	950,000	791,340	158,660	総会誌・会員券
通 信 費	50,000	128,508	△ 78,508	連絡通信費
記 念 品 代	300,000	325,500	△ 25,500	傘寿記念品等
広 告 費	220,000	14,850	205,150	山梨日日新聞広告掲載料
会 場 費	3,900,000	3,630	3,896,370	懇親会食事試食代
会 議 費	240,000	11,360	228,640	実行委員会会議費
予 備 費	40,000	2,750	37,250	銀行振込手数料等
広告料返金	0	2,165,000	△ 2,165,000	総会中止により広告料返金
支 出 合 計	6,250,000	3,539,741	2,710,259	

上記の通り報告いたします。

令和4年4月3日

実行委員長

曾根 順子 (曾)

会計部長

青山 加子 (青)

厳正に監査の結果、諸帳簿、証票ともに適正に処理されていたことを確認しました。

令和4年4月3日

会計監査員

久保 嶋 仁 (久)

会計監査員

塩島 正文 (塩)

## 令和 2 年度・3 年度 事業報告 企画部

- 令和2年度 講演会 コロナウィルス蔓延のため中止  
令和3年度 講演会 令和2年度と同じ状況のため DVD 作成に変更  
座談会 『甲女 青春時代を語る』  
甲女 41 回生 若尾多香様・梅本民子様  
甲女 42 回生 古沢夏喜様
- 令和3年 3月22日 参加者に DVD 作成への協力を依頼  
4月 2日 サドヤシャトー・ド・プロヴァンスにて会場下見と打合せ  
4月 9日 理事会 予算案を承認される  
4月26日 DVD 収録 (於 サドヤシャトー・ド・プロヴァンス)  
6月29日 提供された資料の確認・整理  
8月 6日 石原同窓会長、米山東京支部長に動画撮影依頼  
10月 6日 収録動画と写真の確認  
10月16日 第一回 編集会議  
10月20日 第二回 編集会議  
11月10日 第三回 編集会議  
令和4年 1月13日 完成 納品



\* DVD 作成にあたり、資料をご提供くださいました方々、並びに IT 工房にんにく庵の荒川様ご夫妻に心より感謝申し上げます。

\* DVD をご覧になりたい方は、貸し出しを致しますので下記までご連絡ください。

連絡先…同窓会事務局長 新海宏子 TEL 055-276-5542

# 令和4年度 事業計画書(案)

- 1 第117回定期総会の開催と第118回定期総会の準備  
総会は同窓会の一大事業として、実行委員会に付託し、世代を超えた多くの同窓生が参加し、交流と親睦を深める場とする。  
\* 第117回定期総会については総会のみ実施し、懇親会は実施しない。
- 2 理事会及び常任理事会の開催と会議録の作成  
理事会・常任理事会など諸会議の通知はもとより会議内容・決定事項は会議録に残し保管する。甲府西高同窓会HPに日程を掲載する。
- 3 会報の発行と配布  
会報は同窓会及び同窓生の活動を伝えるために、内容の充実に努め会員に愛され喜ばれる誌面にする。そのために各専門部や各支部から多角的に記事を集め編集する。配布は入学式・総会で行う。
- 4 回生の活動  
各理事を中心にした回生毎の活動では会報並びに「110周年記念DVD」等を有効活用し、本会との連携を密にする。
- 5 講演会の開催  
講演会の実施や各種イベントの開催等を行い、同窓生のなお一層の親睦を図る。「令和3年度講演会DVD」を活用する。
- 6 学校行事への参加と協力  
同窓生のキャリアを生かして学校施設の充実と在校生の教育活動を支援する。
- 7 教育振興会への援助  
教育振興会を通して学校施設の充実と在校生の教育活動を支援する。
- 8 同窓会名簿の管理  
同窓生の住所変更等の異動については各回生からの連絡を受けた都度速やかに処理する。
- 9 奨学金の贈呈  
奨学金を贈呈して母校の生徒の勉学を支援する。
- 10 会則の見直し  
実情に合わせ会則の見直しを行う。
- 11 ホームページの整備と活用  
ホームページに情報を掲載し発信する。併せて運用ルールを整備する。



## 令和 4 年度 同窓会収支予算書(案)

令和4年4月1日から 令和5年3月31日まで

収入総額	支出総額	差引額
3,621,543	3,621,543	0

## 収入の部

(単位:円)

科 目	4年度予算額	3年度予算額	増 減	備 考
前年度繰越金	1,561,529	1,341,631	219,898	
会 費	2,060,000	2,200,000	△ 140,000	新会員会費10,000円×206名
寄 付 金	0	0	0	
積立金取崩収入	0	0	0	
雑 収 入	14	10	4	利息等
収 入 合 計	3,621,543	3,541,641	79,902	

## 支出の部

科 目	4年度予算額	3年度予算額	増 減	備 考
謝 礼 金	150,000	100,000	50,000	講師謝礼等
旅 費	70,000	70,000	0	首都圏西高会等参加
消 耗 品 費	30,000	30,000	0	事務用品等
記 念 品 代	206,000	220,000	△ 14,000	卒業記念品
会 議 費	500,000	450,000	50,000	常任理事会・専門部会等
印 刷 製 本 費	360,000	360,000	0	会報印刷等
通 信 運 搬 費	70,000	70,000	0	各会議通知郵送料等
手 数 料	30,000	30,000	0	銀行貸金庫・残高証明・振込手数料等
教 育 振 興 費	1,000,000	1,000,000	0	学校協力費
雑 費	50,000	20,000	30,000	お礼等
慶 弔 費	30,000	30,000	0	
活 動 費	200,000	200,000	0	首都圏西高会・各種催事祝金等
事 業 費	650,000	650,000	0	総会準備金・奨学金・語学留学補助
同窓会積立金	0	0	0	
固定資産購入支出	200,000	200,000	0	紙折機購入
予 備 費	75,543	111,641	△ 36,098	
支 出 合 計	3,621,543	3,541,641	79,902	

## 第117回 同窓会定期総会収支予算書(案)

収入総額	支出総額	差引額
1,250,000	1,250,000	0

## 収入の部

(単位：円)

科 目	4年度予算額	2年度予算額	増 減	備 考
広告・協賛金	1,000,000	3,000,000	△ 2,000,000	会員からの協賛金・寄付金
総会会員券	0	3,000,000	△ 3,000,000	
総会準備金	200,000	200,000	0	本会より補助
雑 収 入	50,000	50,000	0	税金、利息等
収 入 合 計	1,250,000	6,250,000	△ 5,000,000	

## 支出の部

科 目	4年度予算額	2年度予算額	増 減	備 考
謝 礼 金	50,000	500,000	△ 450,000	アトラクション諸経費等
消 耗 品 費	50,000	50,000	0	事務用品等
印刷製本費	550,000	950,000	△ 400,000	総会誌・写真代等
通 信 費	30,000	50,000	△ 20,000	来賓案内状・連絡通信費
記 念 品 代	200,000	300,000	△ 100,000	傘寿・来賓の記念品代
広 告 費	120,000	220,000	△ 100,000	山梨日日新聞広告掲載料
会 場 費	30,000	3,900,000	△ 3,870,000	総会会場費
会 議 費	200,000	240,000	△ 40,000	実行委員会会議費
予 備 費	20,000	40,000	△ 20,000	
支 出 合 計	1,250,000	6,250,000	△ 5,000,000	

# 同窓会役員

令和 4 年度

甲府西高同窓会

令和 4 年 5 月 15 日現在

役 職	氏 名
顧問 校長	初鹿野 仁
〃 教頭	高 根 勇 木
〃 教頭	秋 山 すみ江
〃 事務長	植 松 文 雄
校 内 総 務	風 間 富美子
〃 理 事	新 海 大 博
〃 理 事	志 村 奨
〃 理 事	大 塩 木 帆

役 職	回 生	氏 名
顧問	高3	一 木 麗 子
〃	高15	坂 本 悦 子
会 長	高30	石 原 敬 彦
副会長	高17	羽 田 喜久枝
〃	高30	窪 田 さゆり
〃	高30	深 川 和 彦
〃	高31	上 原 重 樹
〃	高36	入 倉 要
東京支部長	高30	米 山 正 樹
常任理事	高 8	畔 柳 浩 子
〃	高18	藤 原 静 子
〃	高18	新 海 宏 子
〃	高18	窪 島 満喜子
〃	高18	安 達 映 美
〃	高19	浅 尾 三枝子
〃	高20	土 屋 和 子
〃	高20	小 野 成 美
〃	高21	小 川 けい子
〃	高22	大久保 はるみ
〃	高23	長谷部 澄 子
〃	高23	望 月 かつみ
〃	高25	長 田 美沙子
〃	高27	長 倉 美 穂
〃	高28	遠 藤 明 子
〃	高28	長 澤 伸 子

役 職	回 生	氏 名
常任理事	高30	塚 脇 亮 一
〃	高30	深 澤 寿 子
〃	高30	本 道 民 呼
〃	高38	山 縣 正 道
会計監事	高30	久保嶋 仁
〃	高30	塩 島 正 文
実行委員長	高30	深 川 和 彦

役 職	回 生	氏 名
理 事	甲女42	志 村 和
〃	甲女42	古 沢 なつき
〃	甲女42	渡 辺 清 子
〃	甲女43	堀 内 淳 子
〃	甲女43	村 松 眞由美
〃	甲女44	保 坂 雪 子
〃	甲女44	大 口 富喜代
〃	高 1	犬 飼 寿 子
〃	高 1	西 川 早 苗
〃	高 2	深 沢 はるみ
〃	高 2	向 山 てる子
〃	高 3	小 林 美佐代
〃	高 3	樋 口 嘉 子
〃	高 3	丸 山 徳 子
〃	高 4	小 林 祐 子
〃	高 4	越 石 惟 子

役 職	回 生	氏 名
理 事	高 5	中 澤 勝 子
"	高 6	林 美喜枝
"	高 6	根 岸 京 子
"	高 7	荒 木 波満子
"	高 8	小 池 たへ子
"	高 8	新 井 益 子
"	高 9	田之口 邦 子
"	高10	有 泉 志づ子
"	高10	後 藤 武 子
"	高10	青 島 洋 子
"	高11	青 柳 八重子
"	高12	栗 袋 寿 子
"	高12	磐 上 百合子
"	高13	伊 藤 イツ子
"	高13	稲 葉 富 子
"	高14	松 本 さか江
"	高14	中 島 美智子
"	高14	米 山 紀 子
"	高15	秋 山 早 苗
"	高15	内 藤 規 子
"	高17	中 澤 洋 子
"	高17	野 田 京 子
"	高17	星 野 治 美
"	高17	木 地 早智子
"	高18	清 水 淳 子
"	高18	松 本 由美子
"	高19	岡 部 圭 子
"	高19	熊 木 俊 子
"	高20	松 野 和 美
"	高20	飯 寄 勝 子
"	高20	小 池 美恵子
"	高21	仲 澤 マチ子
"	高21	依 田 よし子
"	高21	村 松 昭 子
"	高22	小 林 和 子
"	高23	中 込 千 春
"	高23	沢 登 美千子
"	高23	清 水 公 子
"	高23	佐 藤 治 子
"	高24	久津間 恵理子

役 職	回 生	氏 名
理 事	高24	塚 崎 淳 子
"	高24	桂 嶋 恵 美
"	高25	若 月 財 子
"	高25	丸 山 ふく恵
"	高25	興 石 ちえ子
"	高26	八 巻 由規子
"	高26	遠 藤 桂 子
"	高26	伊 東 栄 子
"	高26	前 橋 富 子
"	高26	梶 原 薫 子
"	高27	日下部 俊 子
"	高27	宮 川 由美子
"	高27	古 屋 真紀子
"	高28	雨 宮 ひろみ
"	高29	青 山 和 子
"	高29	一 瀬 晴 美
"	高30	猪 股 晴 尚
"	高30	橋 田 正 豊
"	高30	伴 野 明 二
"	高30	高 野 恵 三
"	高31	赤 池 浩 明
"	高31	清 田 山 貴 紀
"	高31	近 山 司 易
"	高31	神宮 敏 成
"	高32	池 田 敏 宏
"	高33	赤 池 章 博
"	高34	野 村 中 本
"	高34	田 坂 一 正
"	高34	坂 市 川 一 仁
"	高34	八 井 上 雅 弘
"	高35	井 朱 宮 史 仁
"	高35	石 原 貴 寛
"	高35	丹 原 澤 明 幸
"	高35	丹 堤 明 祐 伸
"	高36	高 山 祐 仁
"	高36	神 北 条 繁 昌
"	高36	野 澤 昌 一
"	高37	堀 田 昭

役職	回生	氏名
理事	高37	七澤昌信
"	高37	小尾武久
"	高37	小齊木治男
"	高38	遠山晃朗
"	高38	平塚秀人
"	高39	北澤千昭
"	高39	清水雅弘
"	高40	清水尚美
"	高40	清新文香
"	高40	内藤良一
"	高41	山内利彦
"	高42	若林真美
"	高43	川口真法男
"	高43	井上充邦
"	高44	井前嶋かずき
"	高45	杉山陽子
"	高45	永井学
"	高46	萩原真弓
"	高46	鈴木達也
"	高47	金子政一
"	高47	藤井彩
"	高47	樋川勝一
"	高48	海口憲一
"	高49	喜島知加
"	高50	佐々木壮一
"	高51	金丸浩司
"	高51	進藤敬子
"	高52	浅利慶太
"	高53	上田浩司
"	高54	坂本勇太
"	高54	柊沢芳美
"	高55	今村友一
"	高55	藤原麻帆
"	高55	向山憲稔
"	高56	丸山葉子
"	高57	丸茂総太
"	高57	鈴木美紀
"	高58	水上进拓
"	高59	村松匠
"	高59	内藤麻美

役職	回生	氏名
理事	高60	望月陽
"	高60	野田成美
"	高61	渡邊敬太
"	高61	井戸理沙
"	高62	渡辺健司
"	高62	斉藤わか
"	高63	一雄樹
"	高63	八巻菜保
"	高64	横山俊樹
"	高64	樋川愛
"	高65	青野大志
"	高65	横内詩音
"	高66	五木味永行
"	高67	小松林下
"	高67	松加奈
"	高68	笹本恭平
"	高68	栗冠真帆
"	高69	松土大瑞
"	高69	寺井瑞真
"	高70	中澤優里
"	高70	飯室仁
"	高71	大長野
"	高71	長親沢謙
"	高72	親藤原
"	高72	篠原綾
"	高73	齊藤孝
"	高73	田中愛
"	高74	秋山惟
"	高74	猪股陽愛

# 同窓会会則

## 第 1 条 (名称)

本会は、山梨県立甲府西高等学校同窓会と称する。

## 第 2 条 (目的)

本会は、会員相互の親睦をはかり、母校との連絡を密にしつつ、進んで相互の向上進歩をはかることを目的とする。

## 第 3 条 (組織)

本会は、下記の者をもって組織する。

- 1 会員 (1) 普通会員—県立山梨県高等女学校・山梨県立高等女学校・山梨県立第一高等女学校・山梨県立甲府高等女学校の本科並びに専修科・実科の卒業生、補修科・専攻科修了生、併設中学校卒業生、山梨県立甲府第二高等学校、山梨県立甲府西高等学校卒業生
- (2) 準会員—本会設立家政研究科修了生及び本校に在籍した者の中の希望者で、2名以上の会員から推薦された者

### 2 客員 母校の職員及び旧職員

## 第 4 条 (役員)

本会に下記の役員をおき、任期を2ヶ年とする。ただし再選をさまたげない。

- 1 会長 (1 名) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。選出は理事会の互選により選出し総会の承認を得る。
- 2 副会長 (若干名) 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは代行する。選出は理事の中より会長が委嘱する。
- 3 事務局長 (1 名) 事務局は、庶務、企画、会計各部と会長副会長との連絡調整、各種記録の保存管理等本会の業務全般の事務処理を担当する。
- 4 庶務部長 (1 名) 庶務部は、議事録の作成、行事全般の記録、欠席役員に対する連絡通達、会報の作成等を担当する。
- 5 企画部長 (1 名) 企画部は、講演会、レクリエーション等、同窓会事業の立案、回生対策等を担当する。
- 6 会計部長 (1 名) 会計は、一般会計及びその他の会計の金銭管理、事業予算対策及び終身会費の徴収等を担当する。

※ 上記の事務局長、庶務、企画、会計の各部長1名の他、事務局次長2名、各副部長2名を選出する。事務局次長、副部長は、事務局長、部長を補佐し、局長部長事故あるときは代行する。事務局長、事務局次長、各部長、副部長の選出は、理事及び理事経験者の中より会長が委嘱する。

- 7 常任理事 (若干名) 理事及び理事経験者の中より会長が委嘱する。事務局、庶務、企画、会計の各部門に所属し事務を担当する。

- 8 理 事 各回生より選出し会長が委嘱する。諸事項を協議し、本  
会と回生の連絡に当たる。
- 9 校内理事（若干名）母校の職員から会長が委嘱する。母校と本会との連絡に  
当たる。
- 10 会計監査（2 名）理事の互選により選出し、総会の承認を得て会計監査に  
当たる。
- 11 顧 問（若干名）母校の現職の校長・教頭及び本会の会長であった者は顧  
問とする。また本会のために特に適当と認められた者は、  
理事会において推薦し、顧問とする。名誉顧問をおくこ  
ともできる。

第 5 条（総会・入会式）

定期総会は、毎年度できるだけ早期に開催する。但し、必要に応じて臨時総会  
を開くことができる。新会員入会式は、卒業式の前日に行う。

第 6 条（役員会）

会長は、必要に応じて常任理事会・理事会を召集する。

第 7 条（事業）

本会は、次の事業を行う。

- （1）会報及び名簿の発行。
- （2）奨学金制度の設置。
- （3）その他本会の目的達成に関して必要と認められた事業。

第 8 条（決議）

本会の決議は、総会において、出席会員の過半数の同意を得てこれを定める。

第 9 条（経費）

本会の経費は、入会金・終身会費並びに寄付金をもってこれに当てる。

- （1）会員は、入会の際、入会金、終身会費を納入する。
- （2）昭和 57 年度以前の会員は、終身会費を納入する。

第 10 条（会計年度）

本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日までとする。

第 11 条（届出事項）

- （1）会員は、その住所・氏名に変更があったとき、その他一身上の異動のあつ  
たときは、直ちに事務局に通知する。
- （2）本会に支部を置くことができる。
- （3）会員が本会の後援を必要とする場合は、別紙に必要事項を記載の上、会  
長に届出、理事会の承認を得る。

第 12 条 会員及び客員の慶弔、その他の件については、別に決めた内規により行う。

付 則 この会則は、平成 11 年 4 月 29 日から施行する。

改訂 平成 16 年 5 月 2 日

改訂 平成 28 年 5 月 15 日

改訂 平成 29 年 5 月 14 日

見つけよう  
絆の新しい築き方

壁のない社会を目指して

# 特集

～あの頃、あの時～

恩 師 加藤 正明 先生  
恩 師 斉木 邦彦 先生 (高30回生)

新海 宏子 (高18回生)  
米山 正樹 (高30回生)  
遠藤 芳英 (高30回生)  
吉居 恵美子 (高30回生)  
杉山 弘子 (高32回生)  
斉藤 壮馬 (高62回生)





第117回同窓会総会お祝い申し上げます。

恩師

加藤正明先生

甲府高女、甲府二高そして西高と積み上げられた同窓生の輝かしい歴史と伝統に心から敬意をささげます。創立以来の教育活動成果、学園生活は各時代に於いて県全体の誇りであり、若い人たちの憧れでありました。

制度改正により幾多の変様があり、昭和50年甲府地区普通科高校総合選抜に組み入れられました。長い間女子生徒中心であった学校に再び男子も受け入れることになり、鳶の舞い飛ぶ下飯田の田園中に雄容優美な校舎が建築されました。そこに振りあてられた男子生徒を含む新入生を受け入れることになりました。甲府二高に振り分けられたことで不安や不満を抱かないかが心配でした。しかし上級生、先生方が皆温かく、万全の体制を整えて迎え入れてくれました。第一学年主任の矢崎裕先生を中心に担当職員意気に燃えて力を合わせました。それにつけても生徒たちの人間力は見事なものです。様々な課題を逞しく乗り越えていきます。他の二校に劣らぬ学習力を磨き、石ころだらけの校庭で部活動を展開していきました。大らかに豊かな学園の伝統があり、上級生が良く指導や世話をしてくれる風景は見ていて楽しかった。未だアルプス通りもなく荒川橋から自転車で通学してくる生徒もいれば、上石田のバス停から田の畦道を歩いてくる生徒もいて、その中には高柳校長先生の姿もありました。

二年が経過した4月、校名も甲府西高と変わりました。卒業年次となり、それぞれの進路に向けての真剣な努力があり、私共教員も少しでも力になるべく心がけました。生徒たちはそれぞれ立派な道に向け卒業していきました。その人たちが社会に出て各方面で素晴らしい実績を上げられ今回の総会の幹事を勤めています。石原現同窓会長も、卒業生で最初の母校校長を勤めた斉木邦彦さんもその一人であります。この学年の人たちと一緒に生活できたことは私の宝であります。私自身、再度西高に勤務した折、この人たちの姿を思い浮かべながら仕事をしたものです。

同窓会の益々の繁栄を心から願っております。

プロフィール	昭和29年	日川高校卒業、東京大学入学
	昭和33年	東京大学教育学部教育学科卒業、新採用の吉田高校（1年）を振り出しに、昭和63年まで、日川高校（6年）、甲府一高（10年）、甲府二高（西高）（3年）、都留高（3年）、日川高校（7年）に勤務
	昭和63年～	都留高教頭（3年）
	平成3年～	甲府西高校長（2年）
	平成5年～	山梨県教育長（3年）
	平成9年～	山梨県立産業技術短期大学校校長（5年）
	平成15年～	日川高校同窓会長（8年）
	平成25年	小説「蘭茶－私本 珠光記－」を上梓



## 思い出の中の甲府二高と甲府西高

恩師

齊木 邦彦 先生

(高30回生)

このたびは同窓会誌への寄稿の機会をいただき、ありがとうございます。私は寿町から下飯田に移転したばかりの新しい校舎で、二年間を二高生、一年間を西高生として過ごしました。女子校から共学校への過渡期でしたが、同級生にも友達の少ない私にとっては、上級生の女子先輩方との交流など望めるはずもなく、潤いにやや欠ける高校時代でした。

予備校に一年通い、大学には理系で入学し、文学部を卒業しました。勉強をやり散らかした感じの中途半端な4年間でした。将来の希望も漠然としたまま、とりあえず教員免許状を取得しておこうと臨んだ教育実習でしたが、西高で過ごした二週間の経験が鮮烈で、やさしく接してくれた西高生の姿に引き寄せられるように高校世界史教員になりました。

西高には4回赴任し、その都度、自分が高校の教員になったのは西高のような校風の中で働きたいという気持ちからだったのだ、との思いを強くしました。何事にも懸命に取り組む西高生の姿に感動し、クラス担任、年次主任、教頭、校長のそれぞれの立場で、次第に年齢が離れていっても常に真摯に向き合える、これも西高生の姿として印象的でした。

「自由で、のびのびとした校風」。私は校長として集会のたびにそう表現してきました。この表現が的確かどうかはともかく、西高の雰囲気は、女学校から続く伝統の中で自然に形成されてきたものです。学校は何年か経てば生徒も教員もそっくり入れ替わっているのですが、校風は変わらず受け継がれ、その学校らしさ、として生き続けていきます。

生徒として、教員として、これまでたいへんお世話になった二高と西高は、これからも私の思い出の中で、西高らしい雰囲気を漂わせながら確実に輝き続けていくと思います。甲府高等女学校、甲府第二高校、甲府西高校同窓会の皆様、どうぞ末永くご健勝でいらしてください。母校西高の発展と西高で学ぶ後輩たちの活躍をいつまでも見守りましょう。

### プロフィール

1975年4月 甲府第二高校入学

1978年3月 甲府西高校卒業

1978年4月 駿台予備校入学

1979年4月 東京大学教養学部理科二類入学

1983年3月 東京大学文学部東洋史学科卒業

1983年4月 山梨県教員採用(高校・世界史)

1991年4月～96年3月 甲府西高校 教諭

(3年10組・2年4組・3年9組・1年4組・2年5組担任)

2002年4月～07年3月 甲府西高校 教諭

(3年5組担任、1年次・2年次・3年次・1年次主任)

2011年4月～13年3月 甲府西高校 教頭

2016年4月～18年3月 甲府西高校 校長

2018年4月 総合教育センター所長

2019年4月 教育次長

2020年4月 教育長

2021年4月 山梨予備校 校長



## 団塊の世代が託すこと

新 海 宏 子

(高 18 回生)

昭和 22 年生まれ、団塊の世代第一期生？でもある私が甲府二高へ入学した年は一クラスの生徒数が 53 名で 12 クラスあった。いわゆるすし詰め状態での授業には小学生のころから慣れていたのでこれと言った不自由も不満も感じることなく 3 年間を過ごした。

私の高校時代は夢中になって過ごした何かがあったわけでもないのに鮮明に残るほどの思い出はない。が、教科の授業でお世話になった個性豊かな恩師たちの授業は面白く、少なからずその後の私の人生への影響を実感する。

甲府西高は今年で創立 120 周年を迎える。1977 年には甲府西高と校名を変え、2009 年には全日制単位制高校に改編し新たなスタートを切るなど大きな変容を経て立派な卒業生を輩出してきている。

今、私が興味と期待を持って見守っている新たなステージが「国際バカロレア認定校」としての歩みである。2019 年に認定校として船出し、今年度で 3 年目を迎えている。

まず、IB 教育の理念に惹かれた。「…世界の複雑さを理解し対処できる生徒を育成し未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身につけさせるとともに国際的に通用する大学入試資格を与え大学進学ルートを確認することを目的として設置された…」とある。さらに「多様な文化の理解と尊重の精神。人が持つ違いを理解し、自分と異なる考え方の人々にもそれぞれの正しさがあることを認め合えるような生徒の育成を目指す…」

私が国際バカロレアを身近に感じ興味を持ったのは、アメリカで 8 年間の生活を余儀なくされ、またも中途での帰国という運命に身を置かざるを得なかった二人の孫たちの考え方や行い方が妙に IB 教育の理念とリンクするような気がしたからでもある。

渡米の 2 日後には現地校への入学。英語も全く解らず、一人の知り合いもない他民族の垣塙のような環境の中で、人や制度、ルール、価値観などと向き合う事で、幼いながらも日本人としてのアイデンティティーのようなものを意識したのかもしれない。理想的には、日本での高校教育で必要な学力をしっかりと身に付け自信をもって自国の歴史や文化、日本人を語れるような人間として成長していることが望ましい。私の国際バカロレア教育への期待は少しばかり過度で一方的であるかもしれないが、もっともっと、若者が海外に活動の場を広げてほしいと思う。そして外から日本を見て感じ、考え、行動してほしいのです。

---

プロフィール	1966 年	甲府第二高等学校卒業
	1970 年	お茶の水女子大学文教育学部卒業
	2008 年	教職を定年退職
	2009 年～8 年間	甲斐市教育委員会委員
	2008 年～2022 年	甲斐市適応指導教室支援員



## 西高で培ったもの

米 山 正 樹  
(高 30 回生)

半年ほど前になりますが、地元（埼玉県川口市）の公立高校の3年生に向けて「働くこと」「社会に出ること」について話す機会がありました。

生徒たちに「将来の夢」「なりたいもの」を尋ねると、「外交官」「教師」「医者」「家業」など具体的な職業名を挙げる生徒が意外に多く、驚かされました。「私が高校3年のとき、将来何になりたいか具体的なイメージを持っていたらどうか？」と…。

甲府二高が、一高、南高とともに総合選抜、そして共学となった1期生として入学した私は、中学から続けてきたバスケットボール部に入部しました。共学1期生なら当然ですが、どの部活も男子部はなく、同期の仲間と男バス（男子バスケットボール部）をつくることから高校生活は始まりました。

当時、二高の女バス（女子バスケットボール部）は県内の強豪で、入学当初、男バスは女バスの先輩たちのサポート役や、女バスの練習が終わってから練習するような日々でしたが、それでも、部活は楽しいものでした。今でも1年上の先輩たちも含めた前後の学年でOGOB会を開くなど交流は続いています。クラスの思い出、名物先生の思い出などももちろんありますが、一番強く残っているのは、やはり部活の思い出です。

そんな呑気な高校生活を送っていた私が、ようやく将来のことを考えるようになったのは、一浪して大学に進んでからでした。曲がりなりにも「世の中」について学び「人の役に立ちたい」と思うようになり、公務員を目指しましたが力及ばず。新聞社、コンサル会社を経て、現在、独立して20年目の士業を営んでいます。

私の半生を振り返ったとき、「人」がキーワードになっているように思います。生まれてからこれまで、様々な場面で「人」とつながり、「人」に支えられてきましたが、西高の3年間も、そうした「人」とのつながりを強く感じる事が出来た3年間でした。

---

プロフィール 1959年生まれ  
早稲田大学法学部卒業  
地方新聞社、コンサルタント会社を経て、2002年社会保険労務士事務所開設  
社会保険労務士法人プラスワン労務 代表社員  
甲府西高同窓会東京支部 支部長



「異国の地で思い起こすこと」

遠 藤 芳 英

(高 30 回生)

私は西高の第一期生として 1975 年 4 月に入学し、人生で最も多感な 3 年間で過ごしました。こうしてローマという異国の地であの頃を思い起こすと、格別の懐かしさを感じ、すぐにでも帰郷して同級生に会いたくなります。

西高卒業後は、京大農学部を経て農林水産省に就職しました。農水省では、農業・食料・貿易・環境をめぐる様々な国際問題に関与することができました。今の職場である国連食糧農業機関 (FAO) は、ローマの日本大使館勤務が契機となり、2015 年から「世界農業遺産 (GIAHS)」事業の責任者として赴任し現在に至ります。世界には、アステカ起源のメキシコのチナンパ、中国の棚田、スペインの樹齢千年超のオリーブ園など、大変興味深い農業形態が今でも存在し、GIAHS はその保全と発展をめざしています (<http://www.fao.org/giahs/en/>)。コロナ以前は、様々な国に出張しました。一番の思い出は、2019 年の G20 会合で各国の大臣相手に講演を行ったことでした。

そうしているうちに、今やイタリア滞在年数が 14 年を超えました。イタリアは多様な魅力に溢れる国で、最近ではコロナの影響で頻度は減りましたが、家内と様々な地を訪れてそれを堪能してきました。先日もトスカーナの農村ホテルに滞在し、見事な景観と地元産の食材に感銘し、ホテルの所有者や日本人シェフと交流してきました。不思議なことに、海外にいるほど日本への思いは強くなってきます。外から見ると日本も大変魅力的な国です。特に私にとって、美しい山岳景観を有し、高校時代を過ごした甲府は人生終焉の時まで脳裏を離れないでしょう。



スペイン・アンダルシアにて

プロフィール	1959 年 9 月 7 日生まれ (62 歳)
	1978 年 山梨県立甲府西高等学校卒業
	1984 年 京都大学農学部農業経済学修士課程卒・農林水産省入省
	1988 - 90 年 人事院留学制度でカナダトロント大学経済修士課程留学
	1995 - 98 年 在イタリア日本国大使館一等書記官 (対 FAO 日本政府常駐副代表)
	2001 - 06 年 FAO (国連食料農業機関) コーデックス食品規格委員会へ出向
	2013 - 15 年 農林水産省国際協力課国際機関調整官
	2015 - 現在 FAO 世界農業遺産 (GIAHS) コーディネーター (2018 年農水省退職)



## 二足のわらじで、あっという間に40年

吉 居 恵美子 (旧姓:山田)  
(高 30 回生)

西高1期生で、新聞部でした。暴走族の記事を書いたことがあります。結集したバイクの前にリーゼントがズラリ。そんな族の集会の写真を同級生から借りて紙面に載せました。PCもFAXもなかった時代。原稿用紙を自転車で活版の印刷所に運んでいました。

小学校の壁新聞作りの頃から、取材して記事を書くのが好きで、大学卒業後はフリーライター志望。と同時に子供の頃からやっていた日本舞踊を習い事ではなく、舞踊家としてやっこうと決意。「どうしたらライターになれるのか、舞踊家になれるのか」も分からずに二足のわらじ生活をスタート。とはいえ、卒業後はプータロー同然。企業に就職した友人達のスーツ姿がまぶしかったなあ。

西高を卒業して44年。ライター業は雑誌、新聞から単行本の企画・構成・編集もし、舞踊家としては海外公演や演出、振付でも多くの舞台に関わり、NHK大河ドラマの所作指導も手伝わさせていただくようになりました。

10数年前から大学で非常勤講師もしています。『日本古典芸能』という授業で、コロナ禍でのオンライン授業も経験。苦手なPC操作に四苦八苦しながらも、面白く受講してもらおうと画像や動画を入れ、その編集に何日もかかり…。しかも学生達はカメラもマイクもOFFにして授業を受けることになっているため、PC画面には誰の顔も映らず、声も聞こえない。冗談を言っても無反応。何をやっても無反応…学生はみんな寝てるんじゃないか…毎回、不安で顔が引きつりそうな90分でした。

やっと対面授業に切り替わった時、学生達から「オンラインは、先生の授業が一番面白かったよ」「毎週、先生の授業が楽しみでした」の声が。嬉しかった。

まったくお金は貯まらなかったけど、とりあえずやりたいことはやってきた半生でした。還暦を過ぎ、だいぶガタがきましたが、もう少し自分が選んだ道を歩み続けて行きます。



講師をしている昭和音大の教え子たちと

**プロフィール** 舞踊家名は坂東富起子、ペンネームは山田富起子。坂東流師範。昭和音楽大学非常勤講師。古典を継承しつつ、演劇や舞踊劇の台本・振付・演出も手がける。2007年より3年連続で日本舞踊協会主催・文化庁後援の全国大会で大会賞を受賞し、2009年は併せて会長賞を受賞。2019年、主宰する「ふきの会」の20周年公演を初めて国立劇場で開催。フリーライターとしては著書に『美味おかず読本/味つけはしょうゆ、砂糖、塩だけ!』（講談社）編集執筆本に『みんなおもちゃが好きだった』『パリっ子の台所から』（扶桑社）等



## 同窓生と繋がっている素敵なお縁

杉 山 弘 子

(高 32 回生)

還暦を過ぎて思い返してみると、甲府西校の恩師や同窓生とのお縁は本当に貴重で素敵なもので、改めて母校に懐かしさと感謝を感じている。

高校時代で思い出すのは鳳凰祭だ。金木犀の香りが漂う秋になると、鮮明に当時の情景が脳裏に浮かぶ。私は熱心に活動したわけではなく仮装行列で水戸黄門ご一行の悪代官（ひどい役回りですよ）に扮しただけだったが、不思議なものだ。また、東北大学の入試で同級生 9 人が 2 次試験に臨んだ時、担任の故矢ヶ崎先生が仙台まで激励に来てくださった。試験当日の朝には先生を中心に皆で円陣を組んでから試験に臨み、全員が合格できた。恩師の力強い温かさは今でも忘れられない。

大学卒業後に山梨医科大学附属病院薬剤部の創設期メンバーとして働き始めた頃は、同級生が 5 人研修医として働いていたのでとても心強かった。彼らは今は開業医としてご活躍中だ。その後、夫の米国留学で 3 歳と生後 2 ヶ月の 2 人の子供を連れてミネアポリスで 2 年間暮らした。真冬は -40℃にもなり大変だったが、子育ての前半をアメリカでできたのはとても良い経験だったと思う。

さらに 50 歳になってから、父が 1959 年に創業したワインビネガーの醸造会社を継承し、父の代からの夢であった【バルサミコ酢】を造り上げることができた。濃厚でふくよかな香りと旨味が高評価をいただいている。ぶどう生産高日本一、高い醸造技術がある山梨ならではの逸品で、やまなし産業大賞の優秀賞を受賞、山梨県内外の有名シェフにもお使いいただいている。このように常に可能性を追求してチャレンジする姿勢は、西高の校風や恩師の先生からの教えによるところが大きかったと思う。また、3 年前から NHK 番組審議委員を拝命しているのだが、西高の同窓生が NHK でもご活躍されていて、親しく声をかけてくださるのもとてもありがたく嬉しいことだ。

感受性が豊かな高校生時代に西高で学ぶことができ同窓生の皆様とたくさんのお縁が繋がっているのは、何にも変えがたい大きな私の財産で、これからも大切にしていきたいと思う。

### プロフィール

1984 (昭和 59) 年東北大学薬学部を卒業後、山梨医科大学附属病院 (現山梨大医学部付属病院) の開業時に薬剤部に就職し 5 年半勤務。子どもの出産を期に退職し、夫の仕事の関係で都内に移り住む。30 歳の時に夫の留学で 2 年間米国に在住。帰国後、山梨に戻り子育てをしながらパート薬剤師として働いた。子育てが一段落し、2011 (平成 23) 年、父親が 1959 (昭和 34) 年に創業したアサヤ食品 (株) に入社、社長に就任した。



## 千変万化

齊 藤 壮 馬

(高 62 回生)

縁や出会いについて、よく考えます。私が西高に入学したのは2007年、今からおよそ15年ほど前のことです。祖母、そして叔父と同じ学校を選んだのはたまたまでしたが、振り返ってみれば、それもやはり必然だったのかもしれない。

西高で過ごした時間は、とても色濃く記憶に刻まれています。叶うのならもう一度あの日々を過ごしたい、と今でもよく思います。けれど一方で、狭かった自身の世界が打ち砕かれ、数ヶ月間不登校だった時期もありました。結果的に復学することができましたが、家族、先生方をはじめ、当時支えてくださった皆様には感謝してもしきれません。

私の面倒を一番見てくれたのは、祖母でした。無理に奮い立たせようとは決してせず、なにかと声をかけ、私の好きな食べ物を用意してくれました。祖母はまた読書家でもあり、50歳を過ぎてから大学に通い直し、世界中を旅した趣味人でもありました。お互い本の好みが似ていて、よく語らったものです。祖母にはもう、会えなくなりました。

西高を卒業し、声優の道を行っていた私は、いつでも帰れるだろうとあまり実家に寄りつかなくなっていました。本音を言うと、後悔しかありません。弔いや手向けの言葉も、まだ見つけれずにいます。けれど先日帰省し、祖母が遺した本棚を眺めながら両親と話しているうちに、ある考えがすんと腑に落ちたのです。

哀しみや後悔ではなく、慈しみや愛を繋げていくのだ、と。それは今後の人生で実践してゆくしかないことでしょう。ですからただ今は、甲府二高—西高に通っていたことを誇っていた祖母を思いながら、日々を丁寧に生きていこうと決めています。

万物は流転する、とヘラクレイトスは言いました。同じ川には二度と入れないのだと。それでも、いえ、だからこそ、私は祖母の血を引いて生まれたことを、西高で素晴らしい青春を経験できたことを、幸せに思います。

この度は素敵な機会をくださり本当にありがとうございました。皆様に更なる素敵な縁と出会いが訪れますよう、心よりお祈り申し上げます。

**プロフィール** 2010年卒業。在学中に第2回81オーディションを受賞し2010年デビュー。声優業を中心にしながら音楽活動や文筆活動などでも活躍。

主な出演作は SSSS.GRIDMAN(内海将役)、アイドリッシュセブン(九条天役)、ヒプノシスマイク(夢野幻太郎役)など。

2ndEP『my beautiful valentine』が発売中。



# がんばっている在校生たち

令和3年度

## ～関東・全国大会出場及び活躍の記録～

- 陸上 部 関東高等学校陸上競技大会出場  
男子 400m、男子 110mH、男子 3000m 障害、男子 4 × 100m リレー  
男子棒高跳、男子走幅跳、男子三段跳
- 卓球 部 関東高等学校卓球大会出場  
女子団体、女子シングルス  
全国高等学校卓球選手権大会  
女子団体、女子個人ダブルス、女子個人シングルス
- 体操 部 関東高等学校体操競技大会出場  
女子団体、男子個人  
全国高等学校総合体育大会体操競技大会出場  
男子個人
- 山岳 部 関東大会出場  
女子団体
- 水泳 部 関東大会出場  
200 m・400 m個人メドレー、100 m・200 m平泳ぎ、50 m・100 m自由形
- 少林寺拳法 関東大会、インターハイ出場  
女子個人
- 囲碁将棋部 全国高等学校総合文化祭出場  
男子個人、女子個人
- 新聞 部 全国高等学校総合文化祭出場
- 弁論 部門 全国高等学校総合文化祭出場
- 放送 部 全国高等学校総合文化祭出場  
テレビドキュメント部門、創作テレビドラマ部門、校内放送研究発表会
- 文芸 部 関東大会出場  
短歌部門

# ～卒業生の進路を追って～

## 過去5年間の合格状況(現役のみ)

種 別		令和3年度 (6クラス)	令和2年度 (6クラス)	令和元年度 (6クラス)	平成30年度 (6クラス)	平成29年度 (6クラス)
大 学	国立4年制	110	86	75	92	116
	公立4年制	52	50	60	39	42
	私立4年制	480	368	431	300	279
大 学 校		1	0	2	0	2
短 期 大 学		2	4	2	6	3
各 種 専 修 学 校		3	7	5	5	2
海 外 の 学 校		0	0	0	0	0
就 職		1	0	0	1	0

## 令和4年3月卒業生(220名)の合格状況

(数字は人数)

国公立大学(162名)			
北海道大	2	名古屋大	1
東 北 大	2	名古屋工大	1
山 形 大	3	大 阪 大	1
茨 城 大	2	鳥 取 大	1
筑 波 大	5	高 知 大	1
宇 都 宮 大	1	長 崎 大	1
埼 玉 大	3	茨城県立医療大	1
千 葉 大	5	高 崎 経 大	2
東京学芸大	4	埼玉県立大	1
東京農工大	2	東京都立大	9
一 橋 大	1	横浜市立大	2
横浜国立大	1	新潟県立大	2
上越教育大	1	富山県立大	2
新 潟 大	2	山梨県立大	14
富 山 大	3	都留文科大	8
金 沢 大	5	長野県立大	1
福 井 大	1	諏訪東京理大	3
山 梨 大	43	静岡文化芸大	1
信 州 大	10	静岡県立大	5
静 岡 大	8	福知山公立大	1

※ 防衛大学校 1

私立大学(480名)			
文 教 大	2	東京農業大	17
千葉工業大	10	東京薬科大	7
青山学院大	2	東京理科大	5
桜美林大	4	東 洋 大	20
大妻女子大	2	日 本 大	16
学習院大	1	日本女子大	4
北 里 大	9	法 政 大	9
共立女子大	4	東京都市大	8
慶 応 大	1	武蔵野大	9
工学院大	10	明 治 大	12
駒 澤 大	7	明治学院大	8
芝浦工業大	7	立 教 大	11
順天堂大	11	早 稲 田 大	4
上 智 大	4	神 奈 川 大	21
昭和薬科大	2	関東学院大	12
専 修 大	14	山梨学院大	10
大東文化大	10	健康科学大	5
中 央 大	14	常 葉 大	10
津田塾大	4	京都女子大	3
東 海 大	12	同 志 社 大	5
東京家政大	4	立 命 館 大	1
東京経済大	8	関 西 大	4
東京女子大	8	近 畿 大	8
東京電機大	5	そ の 他	116

# 協賛者御芳名

甲府西高同窓会第117回定期総会誌発行に当たり、御協賛いただきました皆様に衷心より厚く御礼申し上げます。

なおページ構成上、掲載が一部順不同となっておりますことを御了承ください。

同窓会長 石原敬彦

実行委員長 深川和彦

# 祝

## 第117回 同窓会定期総会

### 甲女44回生

植松五子

内藤さわ

高野久子

小林静江

小林英子

山田芙美子

保坂雪子

大口富喜代

祝 第117回 同窓会定期総会

甲府二高 11回生

石 井 恵 子

祝 第117回 同窓会定期総会

甲府二高 11回生

青 柳 八重子

祝 第117回 同窓会定期総会

甲府二高 14回生

佐々木 則 子

祝 第117回 同窓会定期総会

甲府二高 18回生

祝 第117回 同窓会定期総会

甲府二高 19回生

浅尾 三枝子 岡部 圭子 熊木 俊子

祝 第117回 同窓会定期総会

甲府二高 22回生

小林 <sup>(ヨリコ)</sup> 和子 大久保 はるみ

祝 第117回 同窓会定期総会

甲府二高 23回生

長谷部 澄子 望月 かつみ

祝 第117回 同窓会定期総会

甲府二高 29回生

曾根 順子 一瀬 晴美 青山 和子

祝 第117回 同窓会定期総会

西高 30回生

久保嶋 仁

# 祝 第117回 同窓会定期総会 常任理事 (企画部)

畔柳 浩子(高8回生) 藤原 静(高18回生)  
浅尾三枝子(高19回生) 長倉 美穂(高27回生) 深澤 寿子(高30回生)

第  
59  
回

## 西美会展

会期 2022.6.21(火)~6.26(日)

場所 山梨県立美術館・県民ギャラリーA

## 西美会

会長 重富 秀美  
連絡先 TEL 055-228-3243

### 第117回 同窓会定期総会御寄付者名

秋 山 早 苗 (高15回生) 様

輿 石 ちえ子 (高25回生) 様

丸 山 ふく恵 (高25回生) 様

猪 股 尚 幸 (高30回生) 様

筒 井 保 士 (高30回生) 様

大 和 美 和 (高31回生) 様

入 倉 要 (高36回生) 様

# 祝

## 第117回 同窓会定期総会

西高30回生 1組

大 森 繁 樹

上 平 貴 明

久保嶋 仁

小 林 一

小 林 美 好

三 枝 拓 也

塩 島 正 文

鈴 木 めぐみ

手 塚 伸

内 藤 惠 介

水 谷 文 彦

望 月 正 明

# 祝

## 第117回 同窓会定期総会

西高30回生 2組

相	原	恵	子	石	原	敬	彦
井	上		隆	大	木		満
奥	秋	美	季	長	田	正	和
小	野	元	生	窪	田	さ	ゆり
輿	石	治	夫	小	西	美	穂
澤	田	直	美	新	津	和	美
本	道	民	呼	増	茂	智	子
丸	茂	修	子	望	月	恭	子
米	山	正	樹	渡	辺	繁	樹



# 祝

## 第117回 同窓会定期総会

西高30回生 3組

浅野慶子

市川良夫

植松正明

河野良一

沢崎文人

杉山理恵

西原妙子

早川夕子

平山一彦

村松節子

山下友子

山本明子

匿名1名

# 祝

## 第117回 同窓会定期総会

西高30回生 4組

岡	田	泰	利	小	倉	正	夫
小	野	洋	子	川	島	直	子
吉	良		誠	丹	沢	妙	子
丹	沢	秀	人	長	坂	勝	弘
永	島	ち	はる	原		潤	子
深	沢	寿	子	山	口	詳	子
吉	田	敬	子	吉	村	公	男

# 祝

## 第117回 同窓会定期総会

西高30回生 5組

飯	室	智	光	石	水	浩
猪	股	尚	幸	大	庭	芳
大	森	正	興	金	本	一
唐	木	文	子	功	刀	徳
小	林	明	久	小	林	悟
齐	藤	ユカリ		高	村	春
筒	井	保	士	内	藤	洋
深	沢		仁	深	沢	弘
前	島	敬	一	松	永	しげ美
南			尚			

# 祝

## 第117回 同窓会定期総会

西高30回生 6組

芦 沢 清 美

大 江 澄 子

北 畑 千代子

小 林 雅 人

斎 藤 慶 子

辰 巳 雅 秀

保 坂 万 栄

丸 山 律 子

望 月 ちはる

米 山 千 恵

# 祝

## 第117回 同窓会定期総会

西高30回生 7組

上 杉 純 一

小 尾 伸 二

狐 塚 勤

佐 野 美 子

塩 野 豊

深 川 和 彦

# 祝

## 第117回 同窓会定期総会

西高30回生 8組

秋 山 賢 二

網 野 ゆかり

橘 田 豊

清 水 昭 彦

高 木 かおる

伴 野 正 明

三 科 ますみ

三 平 武 史

向 山 清 一

# 祝

## 第117回 同窓会定期総会

西高30回生 9組

岩 下 純 一

工 藤 由紀子

島 田 欣 也

鈴 木 美恵子

高 野 恵 二

田 中 良

塚 脇 亮 一

中 込 徹

長谷川 須 美

丸 山 剛

向 山 新

若 尾 孝 一

# 祝

## 第117回 同窓会定期総会

西高30回生 10組

石	原	慶	子	内	田	徹	也
沓	間	聖		齊	木	邦	彦
桜	井	博		鈴	木	章	司
中	込	良	夫	成	島	孝	明
早	川	裕		藤	村	尚	
吉	田	成	人				



## 第 117 回 定期総会実行委員会

実行委員長 深川和彦  
副実行委員長 石原敬彦 窪田さゆり  
実行委員 平山一彦 筒井保士 小林明久 河野良一  
塚脇亮一 久保嶋仁 深沢寿子 塩野豊  
狐塚勤 小倉正夫 丹沢妙子 小野洋子  
清水昭彦 鈴木美恵子 網野ゆかり 猪股尚幸  
辰巳雅秀 斎藤慶子 成島孝明 杳間聖  
大森繁樹 相原恵子 新津和美 本道民呼  
澤田直美 原田元

※委員はすべて西高 30 回生

---

### 編集後記

第 117 回同窓会誌発行にあたり、恩師、諸先輩方、同窓生、西高関係者の皆様には多大なるご協力をいただきまして、ありがとうございました。懇親会開催中止に伴い広告募集も取りやめとなり、発行が危ぶまれましたが、多くの同窓生の皆様から、協賛、寄附等をお寄せいただき、無事総会誌を発行することができましたこと、心より感謝と御礼を申し上げます。

今年度は新型コロナウイルスの流行により、実行委員会もなかなか開催できず、例年より遅いスタートとなりました。それでも、度重なる総会の延期・中止で大変ご苦勞された 29 回生からのバトンをしっかり次代へつなげるため、実行委員一同、西高で培ったチーム力で集中して事にあたってまいりました。行き届きの点もあるかと存じますが、ご理解いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、母校のさらなる発展と同窓会会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

実行委員一同

## 特集テーマ

見つけよう 絆の新しい築き方

「壁のない社会を目指して」

---

## 表紙

佐野智子先生作品（甲府二高—西高 美術教諭）

表紙：「八月の或る日」1986年作 油彩 サイズ 130.3 × 130.3

裏表紙：「けし」1980年作 油彩 サイズ 130 × 130

「葦崎大村美術館」蔵

## テーマ・書

飯室智光（高30回生）

同窓会公式ホームページ <https://www.koufunisikou.com>  
甲府西高の公式ホームページ <https://www.nishi.ed.jp/> の  
「同窓会」からも見るすることができます。



山梨県立甲府西高等学校同窓会 第117回定期総会誌  
令和4年(2022)年5月15日発行

編集・発行 第117回定期総会実行委員会  
〒400-0064 甲府市下飯田4-1-1  
TEL・FAX：055-228-5161  
印刷・製本 株式会社 島田プロセス  
〒409-3867 中巨摩郡昭和町清水新居1534  
TEL：055-233-8829

環境利用促進



この印刷紙には、山梨県の森林産品材が利用されています。  
使用する事で収益金の一部は、山梨県緑化推進機構に寄付され、  
森林環境保護・水質保全の支援に役立てられます。

